



山内 祥太, Ballet Mécanique # 1, 2022  
UV inkjet print (StareReap 2.5) on PVC board with aluminum mounting, 88.6 x 160 cm

# *Ballet Mécanique*

Shota Yamauchi

2022.2.12 Sat. - 3.5 Sat.

会場：RICOH ART GALLERY

会期：2022年2月12日（土）～ 2022年3月5日（土）

時間：12：00～19：00 ※最終日18：00終了

休廊日：日・月・祝 \* 2/15（火）は、三愛ドリームセンター休館日のため休廊となります。

※ 新型コロナウイルス感染防止に伴う政府・東京都の方針により、営業時間・会期は前後する可能性があります。

この度 RICOH ART GALLERY では、山内祥太の個展『Ballet Mécanique』を開催いたします。山内は『TERRADA ART AWARD 2021』にて金島隆弘賞・オーディエンス賞をダブル受賞しました。本展は、受賞後初となる個展になります。

『TERRADA ART AWARD 2021』で発表した映像作品《舞姫》は、ディスプレイ上に映し出されたゴリラが、実際の舞踏家の動きと同期しながら自らの皮膚を脱ぎ捨てていくという作品です。ゴリラは、老いと若返りを繰り返しながら舞い続けます。

「デジタルとフィジカル」「老いと若さ」といった対立する事象を恋愛になぞらえながら、互いの距離を計測しようとした本作は話題となりました。

このように映像作家として知られている山内ですが、大学ではもともと彫刻を専攻していました。山内の作品にしばしば持ち込まれる触覚的・身体的な要素と、彫刻を学んだことは無関係ではないでしょう。

本展で発表する StareReap による作品は、これまで作家が映像で表現してきた要素を、最新の印刷テクノロジーを用いて実体化する挑戦でもあります。



山内 祥太, 《カオ1》シリーズ (CGでのシミュレーション), 2022  
UV inkjet print (StareReap 2.5) on PVC board

本展は、3つのシリーズで構成されています。

《Ballet Mécanique #1》と《ワルツ》シリーズは、コンピューター上で生成されたイメージを、StareReapの立体印刷によって受肉させようという試みです。展覧会の表題作はフランスの画家、フェルナン・レジェが1920年代前半に制作した実験映画の題名に由来します。

レジェは、運動する人間をクローズ・アップで撮影することで、身体をパーツごとに分断し、そこに別の視点を与えようとしていました。リコーの工場にあるStareReap専用の巨大プリンターが稼働する姿を目の当たりにした山内は、「まるで機械が踊っているようだ」と形容しました。山内の企てには、レジェの短編映画と共鳴する部分があるように思えます。

2021年の年始めに公開された山内の代表的な映像作品《カオ》は、作者の顔をかたどったCGモデルに、多様なイメージが積層を繰り返し、変容し続けるという作品です。RICOH ART GALLERYで発表する《カオ》シリーズは、極めて彫刻的なアプローチをした立体作品です。質量を持った映像を、現実の世界に還元するための手法としてStareReapとバキューム成形の技術を組み合わせています。

冒頭で触れたゴリラをモデルとした《舞姫》も、立体印刷によって新たなテクスチャを獲得しました。動的な要素が際立っていた映像作品の《舞姫》ですが、平面化という異なったアスペクトでその世界観を拡張しています。

山内の作品は、作り込まれた皮膚などのグラフィック描写にも大きな魅力があります。



山内 祥太, 《ワルツ》シリーズ, 2022  
UV inkjet print (StareReap 2.5) on PVC board with aluminum mounting  
[each] 138.3×87.1 cm (image size) / 155.9 × 104.7 × 4.1 cm (framed)



山内 祥太, 「舞姫」のためのポージング 1, 2022  
UV inkjet print (StareReap 2.5) on PVC board with aluminum mounting  
35 × 80 cm

「かねてからグラフィックイメージを実体化する検討を重ねてきました」と山内はリコーの技術者に語ります。本展は、山内が2021年に取り組んできたことを一望しつつ、その先にある展開を予感させるものとなりました。「デジタルとフィジカル」の境界を照らし出すStareReapとのコラボレーションを、何卒ご高覧くださいませようお願い申し上げます。

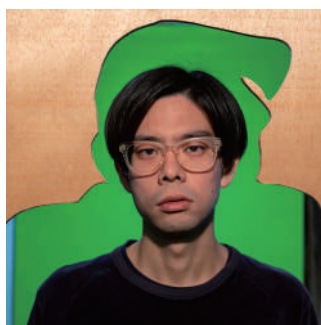


Photo : Koichi Takemura

山内 祥太 | Shota Yamauchi

1992年岐阜県生まれ。神奈川県在住。2016年東京藝術大学映像研究科メディア映像専攻修了。  
『TERRADA ART AWARD 2021』ではファイナリストに選出され、金島隆弘賞・オーディエンス賞を受賞。  
主な展覧会に、『第二のテクスチュア (感触)』(Gallery TOH, 2021年)、『水の波紋 2021 展 消えゆく風景から — 新たなランドスケープ』(ワタリウム美術館, 2021年)、『多層世界の中のもうひとつのミュージアム——ハイパー ICC へようこそ』(NTT インターコミュニケーション・センター [ICC], 2021年)、  
『TERRADA ART AWARD 2021 ファイナリスト展』(寺田倉庫 G3-6F, 2021年)、『六本木クロッシング 2019 : つないでみる』(森美術館, 2019年) など。

<http://shotayamauchi.com/>



RICOH ART GALLERY



Facebook



Instagram



Reservation

RICOH ART GALLERY

リコーアートギャラリー

場所：〒104-0061 東京都中央区銀座 5-7-2  
三愛ドリームセンター 8F・9F

TEL : 03-3289-1521

お問い合わせ : [zjc\\_ricoh-art-gallery@jp.ricoh.com](mailto:zjc_ricoh-art-gallery@jp.ricoh.com)